

Cytotaxonomical notes on some Japanese plants. (1). Journ. Jap. Bot. 35: 43-46.  
 Matsuura, H. & T. Sutô. 1935. Contributions to the idiogram study in phanero-  
 gamous plants. Journ. Fac. Sci. Hokkaido Univ. Bot. 5: 33-75. Noguchi, J. &  
 S. Kawano. 1974. Brief notes on the chromosomes of some Japanese plants (3).  
 Journ. Jap. Bot. 49: 76-86. Oikawa, K. 1942. Chromosome number of *Adoxa*  
*Moschatellina* L. Jap. Journ. Genet. 18: 157-158. Sokolovskaya, A.P. 1966.  
 Geograficheskoe Rasprostranenie Poliploidnykh vidov Rasteniy. Vestnik Leningr.  
 Univ. Biol. 1(3): 92-106.

○高等植物分布資料 (106) Materials for the distribution of vascular plants in  
 Japan (106)

○エゾイチヤクソウ *Pyrola minor* L. エゾイチヤクソウは北半球の寒帯、亜寒帯に  
 広く分布する植物であるが、日本では永らく北海道の利尻島にのみしか知られていなか  
 った。もう大部以前の話になるが、当時東京大学理学部の植物学科の学生であった故寺  
 本一雄氏は、敗戦直後の1947年7月、赤石山系の三伏峠（長野県）の2600m付近でイ  
 チヤクソウ属のものを採集した。当時はベニバナイチヤクソウと考えていたが、原寛氏  
 によってエゾイチヤクソウであることが確認され、本州にもエゾイチヤクソウが分布す  
 ることが明らかとなった（本誌 51: 74, 1976）。寺本氏はその前年に戸台から仙丈岳に  
 登り、シライワシヤジン *Adenophora teramotoi* Hurusawa を採集するなど、食糧事  
 情の悪い時に精力的に活動しておられたが、1948年に狭心症で大学を卒業することなく  
 亡くなられた。したがってあまり広く歩かれておられず、標本が混同することも考えら  
 れないので、氏が三伏峠でエゾイチヤクソウを採集されたことは間違いのないのだが、そ  
 の後本州で本種を採集した話は聞いていない。

昨年の9月、北岳小屋の管理をしている深沢今朝光氏は、北岳吊尾根の池山小屋付近  
 で、ベニバナイチヤクソウに似るが全体が小さくて違うのではないかとということで、イチ  
 ヤクソウ属の一種を採集してこられた。標本は果期のもので、花柱は短くまっすぐで曲  
 らない点で、明らかにエゾイチヤクソウである。池山（山梨県）は標高2800m、亜高  
 山性の針葉樹にかこまれた場所なので、三伏峠の場所とは似た環境に生えていたもの  
 と思われる。寺本氏の採集から35年ぶりである。赤石山系の亜高山帯にエゾイチヤクソ  
 ウが生育することが確実にあった。北岳の池山と三伏峠はかなり離れているので、赤石  
 山脈には本種がかなり広く分布しているのではないと思う。

（東京大学理学部附属植物園 山崎 敬 Takasi YAMAZAKI）